

No. 1153

ロッキード献金事件

ついに証人喚問へ

全日空エアバス、トライスター。この機種選定にあたり、アメリカ・ロッキード社から児玉誉士夫氏や日本の政府高官に多額の献金がされていたことが判明。国内は騒然となった。

これまでも新機種選定をめぐる“黒い霧”は絶えなかった。昭和34年11月、岸首相を議長とする国防会議でも、いったん内定したグラマンがロッキードへ変ったいきさつもある。

2月16日、事態を重視した国会は小佐野賢治氏ら7人を証人として喚問、真相究明にのりだした。小佐野氏はあらゆる質問に対し、「知りません」「関係ありません」「全然わかりません」「記憶にありません」と逃げの一手。

野党の質問も資料不足から今ひとつ決め手に欠け証人喚問は次第に“しらけ”だした。

翌17日、“政界の黒幕”児玉誉士夫氏は病気を理由に喚問を拒否。丸紅の松山会長ら4人が証言した。

大出氏「領収証に4回サインしている。半年の間に4回も。すべてこれはウソだ。あなたは2月7日付の新聞記事によると、クラッター氏に2回会ったと言っている」

伊藤氏「大手町にいたころ、同じビルにロッキード社のオフィスもあり、廊下で会った程度です」

大出氏「担当部門が違うから、会社が大きいから、そして廊下ですれちがったとウソ八百だ」

伊藤氏「前回に言ったのは面識はないと申し上げたのです」

大出氏「偽証だよ」

榎崎氏「伊藤氏の証言した内容とあなたの証言はほとんど違っている。伊藤氏の場合は自分の部屋にやってきてサインしたと
いっている。あなたは自分の部屋でサインさせたとおっしゃっていましたが、ここも違う。委員長、もう一度、伊藤氏と
大久保氏の対決をお願いしたい。

委員長「時間の関係もあり、もう少し質問してもらって……」

榎崎氏「納得できない。どちらかが偽証している」

大久保氏「私は偽証はしておりません」

委員長「約束の時間はすぎましたので後の理事会で。」

逃げの一手に終始した証人。ロッキード献金の疑惑は証人喚問でさらに深まった。